

平成 17年度 地域予算要求事業一覧

(単位:千円)

予算要求部局	事業名	施策番号及び施策名称	事業概要	事業費
農水商工部	北勢広域観光連携強化事業費	233 観光・交流産業の振興 (P.33)	北勢管内14市町で構成する北伊勢広域観光推進協議会と協働して、北勢地域観光のネットワーク化と情報発信に取り組むため今年度は、中部国際空港の開港に伴い、外国人観光客を誘致するため外国版の観光案内パンフレットを作成し、中部国際空港や愛知万博会場、名古屋駅などにキャラバン隊でPRする。	868
農水商工部	歴史と文化の水郷ふるさと再発見事業費	233 観光・交流産業の振興 (P.33)	2005年の中部国際空港開港、愛知万博開催に伴い、多くの観光客が中部地区に訪れることが予想されるが、桑名地域を伊勢神宮や熊野古道に通ずる三重県の北の玄関口として七里の渡し再現事業等を実施することにより、北勢地域はもとより三重県への観光客の誘致につなげていく	4,877
農水商工部	地域産業経営基盤強化事業費	231 自律的産業集積の推進 (P.29)	北勢地域に立地する大手企業を対象に、企業課題やニーズを把握するためのアンケートを実施し、当該アンケート結果を踏まえ、既存の大手・中堅企業が事業展開しやすい環境を確保するため課題解決型の企業訪問を実施します。また、県民局と企業が協働で北勢地域経済振興会議を開催し、北勢地域の経済競争力強化に向けた取り組みを行う	2,075
農水商工部	中小企業経営革新促進普及事業費	232 既存産業の高度化・高付加価値化の促進 (P.31)	地域産業コーディネーターが積極的に企業訪問を行い、企業課題や学官に対するニーズの把握に努めるとともに、企業課題に応じて、企業リタイア人材の活用、研究開発にマッチする研究者の紹介、産学・産産共同研究等を目指した研究会の開催等により、企業の経営革新を促す。	9,357
地域振興部	桑名・員弁生活創造圏環境交流エリア構想推進事業費	531 地域振興プロジェクトの推進 (P.105)	RDF化、焼却発電施設の一体整備のインパクトを生かした地域づくりを通じて、住民、団体、企業、行政等が連携して桑名・員弁生活創造圏域内での資源循環等の環境への取り組みを一層促進し、こうした活動を通じて圏域内外との交流が活発に行われる「環境交流エリア」の形成を目指し、「桑名・員弁生活創造圏環境交流エリア構想推進委員会」を中心に、戦略的プロジェクトの推進に取り組む。	4,957
(北勢県民局 計)				22,134
生活部	安全安心の通学路の整備システム推進事業費	321 交通安全対策の推進 (P.41)	子どもや教育現場、地域の発想を生かした安全・安心な通学路の整備を、学校・PTA・教育委員会・市町村・警察等と協働で行うシステムを構築するとともに、交通安全教育を組み合わせる。	2,500
健康福祉部	健康なまちづくりネットワーク推進事業費	331 健康づくりの推進 (P.51)	個人の健康づくりを支援する社会の環境整備、環境整備に向けた地域の人が自発的に集まるようにするためのコミュニティエンパワーメントのプロセス支援を目的とし、地域のリーダーをつくるためのファシリテータ養成講座、会議の場である健康なまちづくりプラットフォームを開催する。	500
健康福祉部	妊産婦メンタルヘルス向上システム構築事業費	332 子育て環境の整備 (P.53)	妊産婦を対象にアンケートと家庭訪問を実施し、当年度はその結果に基づき、産後うつ病に代表される周産期の精神疾患への早期発見につなげるスクリーニング方法の開発と試行、関係機関の支援ネットワーク構築等を実施する。	1,787
環境森林部	森林ボランティア養成事業費	422 森林・農地・海洋の持つ公益的機能の増進 (P.77)	森林とのふれあいや林業を体験したいと考える県民や森林・林業を通じて環境問題を考えていきたいと考えている県民を対象にイベントや講習会を開催し、自主的に森林整備活動が行えるような森林ボランティアを育成する。また、森林所有者と共に活動を行うことにより、森林所有者の森林に対する価値、意識の再認識を目指す。	750
県土整備部	ホットな阿漕浦海浜公園づくり事業	554 港湾の整備 (P.123)	地域住民が親しみやすくほっとする景観と、安心・安全が保たれた海浜公園にするため、地域住民と行政の協働でなされた過去の事例を踏まえ、今後の施設管理のあり方を検討し、落書き消しやゴミ拾い等の清掃活動を住民主体で行う。	600
(津地方県民局 計)				6,137

平成 17年度 地域予算要求事業一覧

(単位:千円)

予算要求部局	事業名	施策番号及び施策名称	事業概要	事業費
生活部	生活創造圏づくり交通事故のないまちづくり事業費	321 交通安全対策の推進 (P.41)	住民と行政が協働で作成した5本の協働プロジェクトを実践していくことにより、交通安全に対する住民意識を深めると共に、地域に根付きつつある広域的な交通安全活動をより強固なものにしていく。	1,703
農水商工部	松阪地域里地づくり実践事業費	223 農林水産業を支える生産 経営基盤の充実 (P.25)	松阪市山添町地内の谷地田にはホトケドジョウ、メダカ等の希少動植物が確認され、日本古来のすばらしい自然環境が残されている。このため、地域住民と行政が協働で、環境にやさしい里地づくりと環境保全型の地産地消を推進することで、この地域の恵まれた自然環境を保全し豊かな農村環境を築く。さらにはこの手法を活用し、都市住民を巻き込んだ地域づくりを進めていく。	2,287
農水商工部	丹と神の道ネットワーク推進事業費	532 快適で豊かな農山漁村づくり (P.107)	伊勢本街道周辺に点在している自然・歴史・文化・伝統・人的な地域資源を、関係町村、NPO等が広域的に連携し、一体的に活用することで、地域内外との交流を促進し、個性ある地域づくりを行う。	838
農水商工部	松阪地域の観光振興につながる地産地消の定着化事業費	222 戦略的なマーケティングプロジェクトの展開 (P.23)	松阪地域における安全・安心な食糧生産流通体制を整備し、農地の環境保全を図り、かつ、地域内外からの交流を図り豊かな地域を創ることが最も重要である。 平成17年度は市町村合併等もあり、生産者と商業者が新たな「公」として「地産地消定着化実行委員会」等を設立し、ここでしか味わえない食文化の情報を発信し、地域住民と来訪者とのふれあいをとおした観光の活性化に繋げていく。	1,400
(松阪地方農政局 計)				6,228
地域振興部	「きらり」と輝く伊勢志摩づくり事業費	531 地域振興プロジェクトの推進 (P.105)	伊勢志摩生活創造圏ビジョンに基づき「協働事業の実施により、「きらりと輝く伊勢志摩みらいづくり」及び「2005年伊勢志摩再生」を実現するため、ビジョンで掘り起こした地域資源を伊勢志摩の再生に生かす取組を総合行政で実施する。 地域資源に磨きをかけ魅力向上を図る住民組織等の育成・支援 食の安全の取組による地域固有の特産品に対する付加価値づくり 地域協働による主要観光ルート沿道の景観づくり 住民主導による海岸快適空間の創造支援 もてなしの質の向上による外客誘致受入体制の整備	9,574
(南勢志摩農政局 計)				9,574
総合企画局	伊賀 関西戦略事業	512 県境を越えた交流・連携の推進 (P.91)	伊賀 関西戦略事業については、平成13年度に策定した「伊賀 関西戦略」に基づき、「誇りをもって伊賀を知らせる」、「誇りをもって伊賀に迎える」を基軸として、伊賀からの情報発信及び伊賀への来訪者の受け入れの気運の醸成に係る事業を実施してきた。 平成17年度においては、引き続き伊賀の関西地域における知名度を向上させるための事業を推進するとともに、伊賀の交流の促進に係る基盤整備に繋がる取り組みを実施する。 伊賀おためしツアー実施事業 伊賀伝統文化発信事業 JR関西本線複線電化促進事業	2,981
生活部	伊賀らしい風情形成事業	131 文化が身近に感じられる環境づくり (P.13)	芭蕉さんがゆかりの地で残された官民協働による地域づくり、伊賀びとのネットワークなど伊賀スタイルの新しい仕組みを活用し、伊賀の風情を伊賀らしさにこだわりながら形成することにより、住む人の生活に潤いを与え、訪れる人の心を豊かに形成し、誇りと思える地域づくりを行う。	2,000
生活部	協働研究事業	521 多様な活動主体の参画による地域社会づくりの推進 (P.95)	市民主体の活動を活性化し、望ましい市民社会を形成していくため、農政局が、伊賀地域で活動する市民やNPOなどの団体から、農政局と協働で解決すべき地域づくりの課題についての提案を募集し、市民やNPOなどの団体と農・市町村職員が、企画の段階から情報交換し施策形成していく場としての「協働塾」を設け、役割分担を明確にしつつ、市民の主体性を持った地域づくりを進める。	1,648
農水商工部	伊賀甲賀広域連携事業費	233 観光・交流産業の振興 (P.33)	歴史的、風土的に密接な関係にある、伊賀と甲賀の両地域が協働して地域内交流を推進するとともに、近隣都市(関西・中部地方)からの集客拡大を図る。	2,023
農水商工部	伊賀地域のほんまもん「旬味」発信事業費	222 戦略的なマーケティングプロジェクトの展開 (P.23)	食の安全・安心、健康志向などを踏まえ、地産地消・産産地消を基本とした伊賀産品の販路開拓、新商品開発、消費者への普及啓発を行い、伊賀地域の活性化を図る。	2,045
地域振興部	木津川流域水環境啓発事業費	533 流域圏づくりの推進 (P.109)	木津川流域の県境や行政・民間の垣根を越えた流域圏づくりの促進と水質・水量・治水・森林の荒廃など、流域の多様な課題解決に向け地域住民の木津川の水環境に対する関心を高めるため、住民に自主的な参加を前提とした啓発活動に取り組む。 (1)住民による水環境啓発事業 (2)木津川源流域学習事業 (3)みんなで守り育てる伊賀の森林づくり事業	1,000
(伊賀農政局 計)				11,697

平成 17年度 地域予算要求事業一覧

(単位:千円)

予算要求部局	事業名	施策番号及び施策名称	事業概要	事業費
環境森林部	紀北環境スクール'05	432 環境を守り育てる活動への参加と協働の促進 (P.81)	紀北地域の豊かな自然環境の保全を目指して、管内市町との協働により、小学校高学年の子どもたちを対象とした環境講座を開催し、子どもたちの環境保全意識の高揚を図る。	350
環境森林部	産・官・学市民連携尾鷲ヒノキクラブ振興支援事業費	223 農林水産業を支える生産・経営基盤の充実 (P.25)	生活の身近にある産品として尾鷲ヒノキを使ったクラフトの開発を進め、尾鷲ヒノキを地域内外住民により親しみやすくPRするとともに、観光資源として、紀北地域の顔づくりを目指し、新たな地域産業の育成、地域木材の需要の拡大を支援していく。	942
農水商工部	東紀州の海・魅力ある漁村創造事業費	532 快適で豊かな農山漁村づくり (P.107)	漁業者(漁協)に体験観光等、漁村交流(てなし)の機運を高め、主体的に魅力ある漁村が創造されるようにすることにより、地域活性化の方策とする。	1,000
農水商工部	紀北の観光アクションプラン実践事業費	233 観光・交流産業の振興 (P.33)	県で作成している三重県観光振興プランを踏まえて、紀北地域の観光資源を具体的にどう活かすかを示したアクションプランを作成する。また、これを地域に波及していくためのモデル事業を実践する。	3,730
農水商工部	東紀州特産水産物活用事業費	221 安全で安心な農林水産物の安定的な供給 (P.21)	地域の特産物である水産物の斬新な活用並びに消費方法を開拓し、古道客等に広めることにより、地域特産物として定着を図り、漁業経営の安定化の一助とし、水産物の安定的な供給体制を確立する。	1,500
地域振興部	熊野古道ゲートウェイ集客交流構築事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	熊野古道世界遺産登録を契機に紀北地域を「熊野古道ゲートウェイ」として「体験型観光」を核とした広域的システムの確立を目指し、集客交流が民間主体へ移行できる状況を促進することを目的に試行事業を行う。体験型観光を含む観光全般について広域的な推進体制整備の検討会を市町及び関係者により実施する。	1,320
地域振興部	熊野古道世界遺産登録ポスト事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	平成16年度に行われた「釣り」イベントについて、世界遺産登録を忘れず古道の保全や活用の気運醸成を図るため17年度も世界遺産登録ポスト事業として実施する。	425
(紀北県民局 計)				9,267
健康福祉部	紀南地域の保健・医療・福祉新システム推進事業費	331 健康づくりの推進 (P.51)	新システム検討委員会で策定されたアクションプログラムに基づき、システムがスムーズに機能するよう保健・医療・福祉部門の人材育成等を実施する。	614
農水商工部	紀南地域園芸福祉実践支援事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	平成15年度に官民で組織する「紀南園芸福祉推進協議会」により、園芸福祉推進プランの策定が行われ、平成16年度から推進プランの基本方向に沿って、地域での実践活動が進められており、平成17年度以降も引き続き取り組みを実施していく必要があるため、人材育成、活動環境整備、プログラムづくり、普及啓発活動を総合的に実施する。	3,713
農水商工部	機能性かんきつ普及推進事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	紀南地域の特色あるかんきつとして新姫の生産を拡大し、紀南地域の特産品として普及定着を図る。	797
地域振興部	紀南地域活性化推進事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	地域内の課題への対処や地域資源の活用を目指した「紀南地域の振興策」が策定され、それに対応する具体的な取組を市町村、地域内外の各種団体、地域住民等と協働で創意工夫のもとに実施し、新たな地域づくりを推進する。 紀南地域振興策推進事業 紀南地域滞在促進モデル事業	2,543
地域振興部	紀南地域熊野古道活用推進事業費	534 過疎・離島・半島地域の振興 (P.111)	世界遺産に登録された熊野古道の保全と活用を図るため「紀南地域熊野古道協議会」を通じて市町村と協働し事業を行う。熊野古道をローカルアイデンティティに高めるため熊野古道のパンフレット等の活用を大幅に増やす。	8,672
(紀南県民局 計)				16,339
合 計				81,376